

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3753756号
(P3753756)

(45) 発行日 平成18年3月8日(2006.3.8)

(24) 登録日 平成17年12月22日(2005.12.22)

(51) Int. Cl. F I
A 4 4 C 5/20 (2006.01) A 4 4 C 5/20 F

請求項の数 22 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願平7-118837	(73) 特許権者	000001960
(22) 出願日	平成7年5月18日(1995.5.18)		シチズン時計株式会社
(65) 公開番号	特開平8-308617		東京都西東京市田無町六丁目1番12号
(43) 公開日	平成8年11月26日(1996.11.26)	(72) 発明者	田口 秀夫
審査請求日	平成14年2月4日(2002.2.4)		東京都田無市本町6丁目1番12号 シチズン時計株式会社田無製造所内
		(72) 発明者	炊江 淳輔
			東京都田無市本町6丁目1番12号 シチズン時計株式会社田無製造所内
		審査官	村山 睦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 帯状装身具の中留

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

帯状装身具の一端に連結される本体と、
 本体内に装身具の長手方向に関して横方向に摺動可能に設けられた一対のプッシュボタンと、
プッシュボタンをそれぞれ外方向に付勢するばねと、
ばねによって付勢された各プッシュボタンをプッシュボタンの操作部が本体から突出された位置で止める停止手段と、
本体の一端に回動自在に連結された表板と、
表板の下側に固定され、プッシュボタンの係止部と係合するための係合ピンと、
を含み、
 装身具の他端の連結かんの連結軸を本体と表板とで保持して装身具の両端を連結するようにした中留であって、
各プッシュボタンは、
操作部と、
該操作部から内方に延びる腕部と、
腕部の先端に形成された係止部と、
を有し、
一方のプッシュボタンの腕部は上腕部を形成し、
他方のプッシュボタンの腕部は下腕部を形成し、

10

20

上腕部が下腕部の上に摺動可能に重ねられて、一方のプッシュボタンの係止部が、他方のプッシュボタンの係止部の上を越えて、一方のプッシュボタンと他方のプッシュボタンの係止部が対向して配置される中留。

【請求項 2】

带状装身具の一端に連結される本体と、
 本体内に装身具の長手方向に関して横方向に摺動可能に設けられた一对のプッシュボタンと、
プッシュボタンをそれぞれ外方向に付勢するばねと、
ばねによって付勢された各プッシュボタンをプッシュボタンの操作部が本体から突出された位置で止める停止手段と、
 10 本体の一端に回動自在に連結された表板と、
表板の下側に固定され、プッシュボタンの係止部と係合するための係合ピンと、
を含み、
 装身具の他端の連結かんの連結軸を本体と表板とで保持して装身具の両端を連結するようにした中留であって、
各プッシュボタンは凹部を有し、
プッシュボタンが押圧された状態において、
一方のプッシュボタンの係止部が他方のプッシュボタンの凹部内に位置し、
他方のプッシュボタンの係止部が一方のプッシュボタンの凹部内に位置する中留。

【請求項 3】

带状装身具の一端に連結される本体と、
 本体内に装身具の長手方向に関して横方向に摺動可能に設けられた一对のプッシュボタンと、
プッシュボタンをそれぞれ外方向に付勢するばねと、
ばねによって付勢された各プッシュボタンをプッシュボタンの操作部が本体から突出された位置で止める停止手段と、
 20 本体の一端に回動自在に連結された表板と、
表板の下側に固定され、プッシュボタンの係止部と係合するための係合ピンと、
を含み、
 装身具の他端の連結かんの連結軸を本体と表板とで保持して装身具の両端を連結するよう 30
 にした中留であって、
各プッシュボタンが 1 個の抜け止めピンに当接することによって、各プッシュボタンが、
操作部が本体から突出する位置で止められる中留。

【請求項 4】

請求項 1 に記載された中留であって、
一方のプッシュボタンの上腕部はプッシュボタンの厚みの上半を占め、
他方のプッシュボタンの下腕部はプッシュボタンの厚みの下半を占め、
上下腕部は平面において同一位置に設けられ、互いに重ねられる中留。

【請求項 5】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
 40 本体と表板の間に表板を開放位置に付勢する開きばねを設けた中留。

【請求項 6】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
係合ピンはその頂部に半球状のヘッドを有する中留。

【請求項 7】

請求項 1 に記載された中留であって、
プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの一側に片寄って配置される中留。

【請求項 8】

請求項 1 に記載された中留であって、
 50 プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの略中央に位置する中留。

【請求項 9】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
停止手段は本体に固定され、プッシュボタンの上下腕部の側面に形成された切欠部の側壁に当接するように配置された抜け止めピンより成る中留。

【請求項 10】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
表板を外方向に付勢する開きばねを備え、
開きばねはコイルばねであり、本体に形成された連結部と、表板に連結されるピンとの間に配置される中留。

【請求項 11】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
ばねはプッシュボタンの両側に配置された一对の戻しばねである中留。

【請求項 12】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
表板は基部の両側に形成された一对の連結突起と、その突起と一体に形成された横板とよりなる中留。

【請求項 13】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
プッシュボタンの係止部は表板の係合ピンと係合する係合フックを有する中留。

【請求項 14】

請求項 1 から 3 のいずれかに記載された中留であって、
両プッシュボタンは平面で線対称形状に形成される中留。

【請求項 15】

請求項 9 に記載された中留であって、
切欠部は上下腕部の内側に形成される中留。

【請求項 16】

請求項 9 に記載された中留であって、
切欠部は上下腕部の外側に形成される中留。

【請求項 17】

請求項 13 に記載された中留であって、
プッシュボタンの操作部と係止部は同じ厚さを有し、係合フックはその下側に形成された逃げ孔によって形成される中留。

【請求項 18】

請求項 17 に記載された中留であって、
プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの一側に片寄って配置されており、停止手段は本体に固定され、プッシュボタンの上下腕部の外側面に形成された切欠部の側壁に当接するように配置された抜け止めピンより成り、プッシュボタンの係合部は表板の係合ピンと係合する係合フックを有し、プッシュボタンの操作部と係合部は同じ厚さを有し、係合フックはその下側に形成された逃げ孔によって形成される中留。

【請求項 19】

請求項 17 に記載された中留であって、
プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの略中央に位置されており、停止手段は本体に固定され、プッシュボタンの上下腕部の内側面に形成された切欠部の側壁に当接するように配置された抜け止めピンより成り、プッシュボタンの係合部は表板の係合ピンと係合する係合フックを有し、プッシュボタンの操作部と係合部は同じ厚さを有し、係合フックはその下側に形成された逃げ孔によって形成され、表板は基部の両側に形成された一对の連結突起と、その突起と一体に形成された横板とよりなる中留。

【請求項 20】

請求項 1 から 19 のいずれかに記載された中留を備える帯状装身具。

【請求項 21】

10

20

30

40

50

請求項 1 から 19 のいずれかに記載された中留を備える時計バンド。

【請求項 22】

請求項 1 から 19 のいずれかに記載された中留を備える時計。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は時計用バンド、ブレスレット等の帯状装身具を環状に連結するための連結金具に関し、特に、婦人用のブレスレット、時計のバンド等の幅の細い装身具に用いられるに適した連結金具としての中留に関する。

【0002】

【従来の技術】

図 11 はプッシュボタンを有する時計バンド用の従来の中留を示す。中留 40 は一对のプッシュボタン 42 が中留本体 41 に形成された収容空間部 43 内に摺動自在に設けられ、バンド（図示せず）の長手方向に対して横方向に動くようになっている。プッシュボタン 42 は同一形状であり、収容空間部 43 の中心に関し点対称に配置されている。各プッシュボタン 42 は、半円形で、上向傾斜部を有し、互いに相対して配置された係合フック 44 を有する。プッシュボタン 42 間に、一对の戻しばね 45 がプッシュボタンの長手方向に対して両側に設けられ、且つ点対称に配置されて、プッシュボタンを外方向に付勢している。更に、一对の抜け止めピン 46 が対応するプッシュボタン 42 に形成された溝 42a に係合され、本体にカシメ固定されている。各プッシュボタン 42 は抜け止めピン 46 によってプッシュボタンの端部が本体 41 から突出する位置で止められている。従って、プッシュボタンが本体から抜け出るのを止められている。

【0003】

中留 40 の一端には円筒状の連結部 47 が形成され、ここに表板（図示せず）が回動可能に取付けられる。この表板の裏側には、例えば図 1 に示す半球状のヘッドを有する係合ピン 21 が固定され、このピンが係合フック 44 に係合するようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

このような中留では、プッシュボタンと戻しばねが収容空間部内で平面的に且つ点対称に配置されているので、中留の幅が大きくなる。このような中留は婦人用の小さい幅のバンドに利用するのは困難である。

【0005】

従って本発明の目的は、幅が狭く、また全体としても小型で、しかも強度のある中留を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するため、第 1 の本発明による中留は、上部に開口を有し、帯状装身具の一端に連結される本体と、本体内に装身具の長手方向に関して横方向に摺動可能に設けられた一对のプッシュボタンと、本体の一端に回動自在に連結された表板とを有し、装身具の他端の連結かんの連結軸を本体と表板とで保持して装身具の両端を連結するようにした中留において、各プッシュボタンは操作部と、該操作部から内方に延びる腕部と、腕部の先端に形成された係合部を有し、一方のプッシュボタンの腕部はプッシュボタンの厚みの上半を占める上腕部を形成し、他方のプッシュボタンの腕部は下半を占める下腕部を形成し、上下腕部は平面において同一位置に設けられ、互いに重ねられていることと、プッシュボタンの間に設けられ、プッシュボタンを夫々外方向に付勢するばねと、前記ばねによって付勢された各プッシュボタンを、プッシュボタンの操作部が本体から突出された位置で止める停止手段と、表板の下側に固定され、プッシュボタンの係合部と係合するように設けられた係合ピンとより成ることを特徴とする。

特に、

「各プッシュボタンは、

10

20

30

40

50

操作部と、

該操作部から内方に延びる腕部と、

腕部の先端に形成された係止部と、

を有し、

一方のプッシュボタンの腕部は上腕部を形成し、

他方のプッシュボタンの腕部は下腕部を形成し、

上腕部が下腕部の上に摺動可能に重ねられて、

一方のプッシュボタンの係止部が、他方のプッシュボタンの係止部の上を越えて、一方のプッシュボタンと他方のプッシュボタンの係止部が対向して配置される」ことを特徴とする。

10

さらに、

「各プッシュボタンは凹部を有し、

プッシュボタンが押圧された状態において、

一方のプッシュボタンの係止部が他方のプッシュボタンの凹部に位置し、

他方のプッシュボタンの係止部が一方のプッシュボタンの凹部に位置する」

ことを特徴とする。

さらにまた、

「各プッシュボタンが1個の抜け止めピンに当接することによって、各プッシュボタンが、操作部が本体から突出する位置で止められる」

ことを特徴とする。

20

【0007】

第2の本発明による中留は、第1の発明において、プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの一側に片寄って配置されており、停止手段は本体に固定され、プッシュボタンの上下腕部の外側面に形成された切欠部の側壁に当接するように配置された抜け止めピンより成り、プッシュボタンの係合部は表板の係合ピンと係合する係合フックを有し、プッシュボタンの操作部と係合部は同じ厚さを有し、係合フックはその下側に形成された逃げ孔によって形成されたことを特徴とする。

【0008】

第3の本発明による中留は、第1の発明において、プッシュボタンの上下腕部はプッシュボタンの略中央に位置されており、停止手段は本体に固定され、プッシュボタンの上下腕部の内側面に形成された切欠部の側壁に当接するように配置された抜け止めピンより成り、プッシュボタンの係合部は表板の係合ピンと係合する係合フックを有し、プッシュボタンの操作部と係合部は同じ厚さを有し、係合フックはその下側に形成された逃げ孔によって形成され、表板は基部の両側に形成された一对の連結突起と、その突起と一体に形成された横板とよりなることを特徴とする。

30

【0009】

【作用】

中留の連結状態においては、装身具の一端の連結かんの連結軸がロックされた表板と中留本体との間に挟持されている。両プッシュボタンを押すと、その係合部が表板の係合ピンより外れ、表板が解放され、連結かんを中留本体より外すことができる。

40

【0010】

【実施例】

以下、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。図1は本発明の一実施例としての中留を示す斜視図、図2はその主要部分を示す切断平面図である。図1及び図2を参照するに、本発明の中留1は、時計バンド2の一端の駒2aに回転自在に連結された中留本体3と、中留本体3の一端に回転自在に取り付けられた表板4と、バンドの他端の駒2bに回転可能に取付けられた連結かん23より成る。

【0011】

中留本体3は図1に示すように上面に凹部5を有し、ここに表板4が係合されるようになっている。また図2に示すように、本体内に幅方向に形成され、本体の両側面に開口する

50

収容空間部 6 が形成され、凹部 5 に収容空間部 6 に連通する円形の開口 7 が形成されている。更に、本体の基部からは夫々連結孔 3 b を有する一对の連結脚部 3 a が突出され、ピン 2 c を介してバンド端部の駒 2 a と連結される。又連結脚部 3 a と反対側では、凹部 5 の下方から支持腕 8 が突出され、その先端に円筒状の連結部 9 が形成されている。開きばね 10 が、図 2 に示すように連結部 9 の大径孔内に係合している。即ちばね 10 の内端部は連結部 9 に固定されており、外端部は突出している。

【 0 0 1 2 】

一对の押しボタン 1 1、1 2 が収容空間部 6 内に納められ、バンドの長手方向に対して横方向に摺動できるようになっている。押しボタン 1 1、1 2 は略平面で線対称形状であり、収容空間部 6 内に線対称に一部分が重なって配置されている。

10

【 0 0 1 3 】

即ち、図 3 に示すように、一方の押しボタン 1 1 は、収容空間部 6 から突出するように形成された操作部 1 1 a と、操作部 1 1 a の内側に形成された凹部 1 1 b と、押しボタン 1 1 の厚みの上半分の厚さを有し、押しボタン 1 1 の上面と同一平面で凹部 1 1 b の一端から内方に延び、内側に切欠部 1 5 a を有する上腕部 1 5 と、上腕部 1 5 の先端に凹部 1 1 b と対応し、押しボタンの上下面と同一平面を有するように形成された係止部 1 7 とを有する。係止部 1 7 は、凹部 1 1 b に対応する上端部に、半円形で、球面状の傾斜部 2 0 a を有する係合フック 2 0 を有する。係止部 1 7 の係合フック 2 0 の下側には、図 4 に示すように段部を有する逃げ孔 2 0 b が形成され、フックの係合部を形成している。

20

【 0 0 1 4 】

他方の押しボタン 1 2 は、収容空間部 6 から突出するように形成された操作部 1 2 a と、操作部 1 2 a の内側に形成された凹部 1 2 b とを有し、押しボタン 1 2 の下面と同一平面で、押しボタンの厚みの下半分の厚さを有する下腕部 1 6 が凹部 1 2 b の一端から上腕部 1 5 に対応して内方に延びている。下腕部 1 6 はその内側に切欠部 1 6 a を有し、先端に凹部 1 2 b に対応して、押しボタンの上下面と同一平面を有する係止部 1 8 が形成される。係止部 1 8 は係止部 1 7 と同様に、凹部 1 2 b に対応する半円形の係合フック 2 0 c を有する。係合フック 2 0 c は球面状の傾斜部 2 0 d を有し、その下方には逃げ孔 2 0 e が形成されている。

【 0 0 1 5 】

組み立てにおいて、押しボタン 1 1 の上腕部 1 5 が押しボタン 1 2 の下腕部 1 6 の上に摺動可能に重ねられる。即ち、係止部 1 7 は係止部 1 8 の上を越えて係合フック 2 0 と係合フック 2 0 c とが互いに対向して配置される。係合フック 2 0、2 0 c の下方の逃げ孔 2 0 b、2 0 e も互いに対向している。一对の戻しばね 1 3 が押しボタン 1 1、1 2 の凹部 1 1 b、1 2 b の両側突出部 1 1 c と 1 2 c の間に夫々配置される。本体 3 の側面から収容空間部 6 に押しボタンと戻しばねを組合せたものを挿入し、1 個の抜け止めピン 1 4 が本体の凹部 5 に形成された孔に圧入され、抜け止めピン 1 4 は上下腕部 1 5、1 6 の切欠部 1 5 a、1 6 a と係止部 1 7、1 8 との間に形成された空隙に係合し、その側壁に当接し、各押しボタン 1 1、1 2 は抜け止めピン 1 4 によって操作部 1 1 a、1 2 a が本体 3 から突出する位置で止められている。本体 3 上の開口 7 は押し

30

40

【 0 0 1 6 】

表板 4 は、図 5 に示すように、下側に堅固に取付けられた係合ピン 2 1 を有する。係合ピン 2 1 は凹部 5 の開口 7 に対応する半球状のヘッド 2 1 a を有する。更に孔 4 b を有する一对の連結突起 4 a が表板 4 の基部両側に設けられている。

【 0 0 1 7 】

図 1 に示すように、連結ピン 2 2 が連結突起 4 a の孔 4 b 及び開きばね 10 を有する連結部 9 の孔に挿入されて、表板 4 が本体 3 に回転自在に連結される。連結部 9 に係合されたばね 10 の外端部は表板 4 の下側に当接される。従って、表板 4 はばね 10 によって外方向に付勢され、図 1 に示すように開かれる。

50

【0018】

バンド2の他端の駒2bにピン2dにより連結された連結かん23には横方向に連結軸23aが設けられている。

【0019】

中留1を連結する方法を以下に説明する。表板4はバンド2の連結かん23の連結軸23aの下方から挿入される。連結軸23aは本体3の支持腕8上に置かれ、表板4が連結ピン22を中心に連結軸23aを越えて回転される。表板4が凹部5に当接するように押圧され、係合ピン21が凹部5の開口7に挿入される。係合ピン21の半球状ヘッド21aはプッシュボタン11、12の係合フック20、20cの傾斜部20a、20dと係合し、ばね13の弾性力に抗してプッシュボタン11、12を夫々外方向に押す。半球状ヘッド21aが係合フックを通過すると、係合フックはばね13によって戻され、係合ピン21と係合する。一方ヘッド21aは係合フックの下方に形成された逃げ孔20b、20eに係合する。これにより、バンド2の両端が連結される。

10

【0020】

中留1を外すには、プッシュボタン11、12の操作部11a、12aを同時に押圧する。これにより、係合フック20、20cが開き、係合ピン21を解除する。この時、プッシュボタン11、12には凹部11b、12bが形成されているので、係止部17、18が対応する凹部12b、11b内に位置され、夫々のプッシュボタンにぶつからないようになっている。係合ピン21が解除されると、開きばね10の端部が表板4の下側に当接し、表板を上方向に付勢しているため、表板4は自動的に開く。その後連結軸23aが支持腕8から外される。このようにして、連結かん23が中留1から外される。

20

【0021】

本実施例によればプッシュボタンが互いに部分的に重なっており、中留の幅が減少される。従って、小さい幅の装身具に利用できる。

【0022】

上記第1実施例では、上下腕部15、16が細くなる傾向があり、強度が不足することがある。それを補うため、太くすると中留の幅が広がる。又凹部5の開口7と抜け止めピン14の孔が接近しているため、凹部5の壁が破れてしまう恐れがある。更に、表板4は係合ピンの半球状のヘッド21aのために、構造上その長手方向にスペースに余裕を持たせる必要がある。そのため表板の長さが長くなるが、表板が長いと外観が劣ることになる。

30

【0023】

図6乃至図9は上記の問題を解消した本発明の第2実施例を示す。第1実施例と同一の部分は図1乃至図5と同じ参照符号で示される。中留24は、前述の実施例と同様に、中留本体25と表板27とより成る。中留本体25の凹部26には矩形の開口29が形成されている。収容空間部30内に一对のプッシュボタン31、32が一部分重なって摺動自在に配置されている。

【0024】

図8に示すように一方のプッシュボタン31は、操作部31aと、その内側に形成された凹部31bとを有する。プッシュボタン31の厚みの上半分の厚さで、その上面と同一平面を有する上腕部35が、操作部31aの略中央部から内方に延びており、外側に切欠部35aが形成されている。上腕部35の内側部に、プッシュボタンの上下面と同一高さの上下面を有する、平面U字形の係止部37が凹部31bに向かい合って形成されている。係止部37は、凹部31bに対応する上端部に、下向傾斜部39aを有する係合フック39を有する。係合フック39の下側には逃げ孔39bが形成され、フックの係合部を形成している。

40

【0025】

他方のプッシュボタン32は、プッシュボタン31と線対称形状をなし、操作部32aと、凹部32bとを有し、プッシュボタン32の下面と同一平面で、その下半分の厚さを有する下腕部36が、操作部32aの略中央部から上腕部35に対応して内方に延びている。

50

。下腕部 36 はその外側に切欠部 36 a を有し、その内側部にプッシュボタンの上下面と同一上下面を有する係止部 38 が形成されている。係止部 38 は係止部 37 と同様に傾斜部 39 a を有する係合フック 39 を有し、その下側には同様に逃げ孔 39 b が形成されている。

【0026】

組み立てにおいて、プッシュボタン 31 の上腕部 35 がプッシュボタン 32 の下腕部 36 に互いに摺動可能に重ねられる。係止部 37、38 がプッシュボタンの上面と同一の高さで、且つ係合フック 39 が互いに対向して配置される。一对の戻しばね 33 がプッシュボタン 31、32 の両側突出部 31 c、32 c の間に夫々取付けられる。この状態で本体 25 の収容空間部 30 内に挿入され、抜け止めピン 34 が本体の凹部 26 に形成された孔に 10
圧入され、上下腕部 35、36 の切欠部 35 a、36 a 間で形成された空隙に係合する(図 7)。従って、プッシュボタン 31、32 が本体 25 から抜け出るのを止められている。凹部 26 の矩形の開口 29 はプッシュボタン 31、32 の係合フック 39 に対応して形成されている。

【0027】

図 9 に示すように、表板 27 の下側に取付けられた係合ピン 28 は平坦形のヘッド 28 a を有する。このヘッドは半球状のヘッドを表板の長手方向両側を平行に切除して半円形板状に形成されている。本体 25 の凹部 26 の矩形の開口 29 はこのヘッドの形状に対応したものである。更に表板には一对の連結突起 27 a 間に一体に形成された横板 27 b が形成されている。 20

【0028】

中留 24 の着脱方法は前述の実施例と同様である。即ち、表板 27 をバンド 2 の連結かん 23 の内側に通し、係合ピン 28 が本体 25 の凹部 26 の矩形開口 29 に挿入されると、係合ピン 28 の平坦形ヘッド 28 a がプッシュボタン 31、32 の係合フック 39 の傾斜部 39 a と係合し、戻しばね 33 の弾性力に抗してプッシュボタン 31、32 を夫々外方向に押す。ヘッド 28 a が係合フック 39 を通過すると、係合フックはばね 33 によって戻され、係合ピン 28 と係合し、ヘッド 28 a は係合フックの下側の逃げ孔 39 b と係合する。プッシュボタン 31、32 の操作部 31 a、32 a を同時に押圧することによって、係合フック 39 は係合ピン 28 から外される。 30

【0029】

本実施例ではプッシュボタンの上下腕部がプッシュボタンの操作部の略中央部から突出し、抜け止めピンの為の切欠部を腕部の外側に形成している。従って、上下腕部の幅を広くすることができるので強度が増す。又、抜け止めピンが係合する切欠部が外側に形成されているので、抜け止めピンの位置が凹部の開口から遠ざかり、本体の凹部の壁が破れにくくなる。 30

【0030】

更に、表板の係合ピンのヘッドが長手方向に幅が狭くなっているため、表板はその長さが減少され、外観を向上させることができる。又、表板の基部を一体の横板で塞いでいるので、連結部が見えず中留の外観をより向上させ、しかも強度を増すことができる。 40

【0031】

図 10 は本発明の第 3 実施例を示す斜視図である。本実施例は第 1 実施例の中留 1 をプレスレット 50 に適用したもので、中留本体 3 c 及び連結かん 23 b は基端縁を円弧状にし、その部分にプレスレット 50 の端部のリング 50 a を口 - 付けにより連結したものである。中留の構造は第 1 実施例と同じで、その構成に付いての説明は省略する。 40

【0032】

尚、上記実施例においては、中留本体 3 にリング 50 を口 - 付けで固定したが、中留本体 3 の基端縁に孔を明け、この孔にリング 50 を挿入固定しても良い。又、形状の異なるプレスレットの場合は、ピン、ばね棒等の連結部材により中留本体と連結する。

【0033】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明によればプッシュボタンが互いに部分的に上下に重なっているため、小さい幅の装身具に利用できる。更に、プッシュボタンの形状を選定し、又係合ピンのヘッドの形状を変えることにより、中留の形状をより小さく、しかも外觀品質の向上と強度を増すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 実施例としてのバンドと中留を示す斜視図である。

【図 2】中留の主要部分を示す切断平面図である。

【図 3】中留のプッシュボタンを示す分解斜視図である。

【図 4】図 2 の I V - I V 線に沿う断面図である。

【図 5】表板の斜視図である。

10

【図 6】本発明の第 2 実施例としてのバンドと中留を示す斜視図である。

【図 7】第 2 実施例の中留の主要部分を示す切断平面図である。

【図 8】第 2 実施例のプッシュボタンを示す分解斜視図である。

【図 9】第 2 実施例の表板の斜視図である。

【図 10】本発明の第 3 実施例を示す斜視図である。

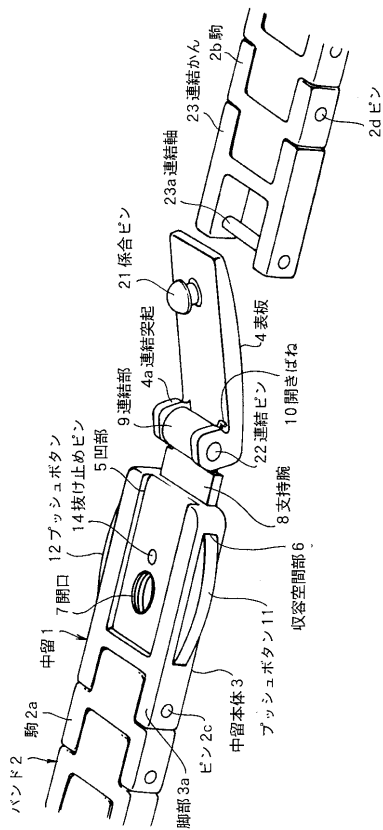
【図 11】従来の中留の要部切断平面図である。

【符号の説明】

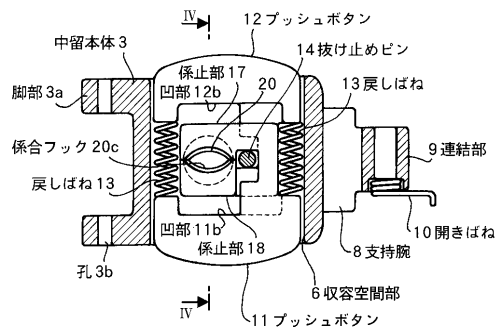
- | | | |
|---------|---------|----|
| 1 | 中留 | |
| 2 | 時計バンド | |
| 2 a、2 b | 駒 | 20 |
| 2 c、2 d | ピン | |
| 3 | 中留本体 | |
| 3 a | 連結脚部 | |
| 3 b | 孔 | |
| 3 c | 中留本体 | |
| 4 | 表板 | |
| 4 a | 連結突起 | |
| 4 b | 孔 | |
| 5 | 凹部 | |
| 6 | 収容空間部 | 30 |
| 7 | 円形開口 | |
| 8 | 支持腕 | |
| 9 | 連結部 | |
| 10 | 開きばね | |
| 11 | プッシュボタン | |
| 11 a | 操作部 | |
| 11 b | 凹部 | |
| 11 c | 突出部 | |
| 12 | プッシュボタン | |
| 12 a | 操作部 | 40 |
| 12 b | 凹部 | |
| 12 c | 突出部 | |
| 13 | 戻しばね | |
| 14 | 抜け止めピン | |
| 15 | 上腕部 | |
| 15 a | 切欠部 | |
| 16 | 下腕部 | |
| 16 a | 切欠部 | |
| 17、18 | 係止部 | |
| 20、20 c | 係合フック | 50 |

2 0 a、2 0 d	傾斜部	
2 0 b、2 0 e	逃げ孔	
2 1	係合ピン	
2 1 a	半球状ヘッド	
2 2	連結ピン	
2 3	連結かん	
2 3 a	連結軸	
2 3 b	連結かん	
2 4	中留	
2 5	中留本体	10
2 6	凹部	
2 7	表板	
2 7 a	連結突起	
2 7 b	横板	
2 8	係合ピン	
2 8 a	半円形板状ヘッド	
2 9	矩形開口	
3 0	収容空間部	
3 1	プッシュボタン	
3 1 a	操作部	20
3 1 b	凹部	
3 1 c	突出部	
3 2	プッシュボタン	
3 2 a	操作部	
3 2 b	凹部	
3 2 c	突出部	
3 3	戻しばね	
3 4	抜け止めピン	
3 5	上腕部	
3 5 a	切欠部	30
3 6	下腕部	
3 6 a	切欠部	
3 7、3 8	係止部	
3 9	係合フック	
3 9 a	下向傾斜部	
3 9 b	逃げ孔	
5 0	プレスレット	
5 0 a	リング	

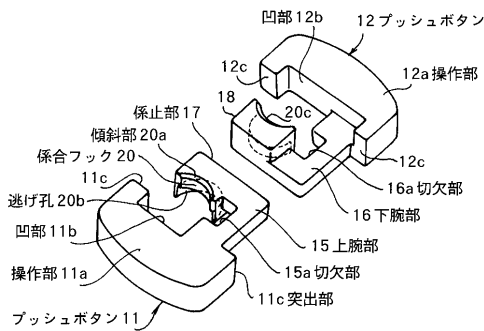
【 図 1 】



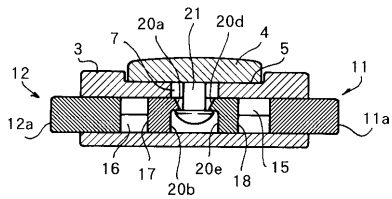
【 図 2 】



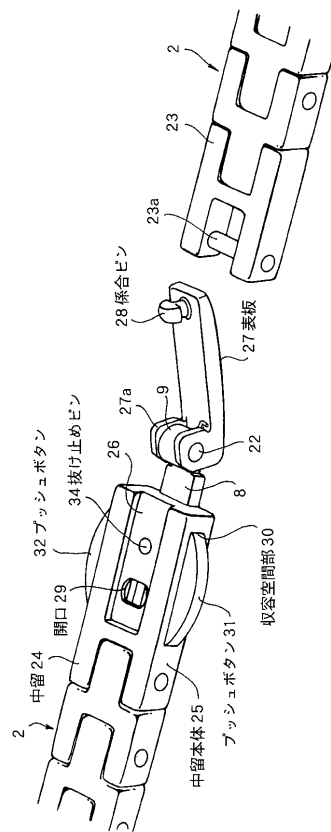
【 図 3 】



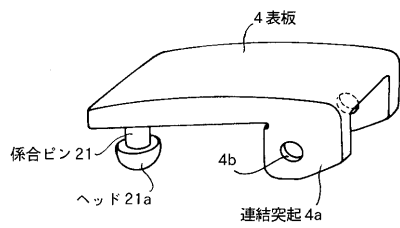
【 図 4 】



【 図 6 】



【 図 5 】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平06 - 000124 (JP, U)
実開平02 - 059618 (JP, U)
特開平04 - 347101 (JP, A)
実開平06 - 013521 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl. , DB名)
A44C 5/20